

振り返りから自己実現へ
～自らの学習を調整し、学びを生かそうとする子どもの育成を目指して～

鹿屋市立笠野原小学校 教諭 作井 由希乃

目 次

1	はじめに	1
2	研究主題	1
3	研究主題設定の理由	1
	(1) 学校教育目標から	
	(2) 児童の実態から	
4	研究内容	2
5	研究の実際	2
	(1) 自己調整学習について	
	(2) 振り返り上達への3ステップ+1について	
	(3) 振り返りから見る授業改善について	
	(4) 「振り返り」を実生活に生かす場の設定について	
6	研究の成果と課題	9
	(1) 研究の成果	
	(2) 今後の課題	

〔引用・参考文献〕

・『小学校学習指導要領（平成29年告示）』	文部科学省	平成29年
・『令和の日本型学校教育における学びのイメージ（たたき台）』	文部科学省	令和2年
・『令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）【概要】』	文部科学省	令和3年
・『学習指導第2号 非認知能力を育てる学習指導の一考察』	鹿児島県総合教育センター	令和5年
・『大隅学力向上リーフレット 令和5年度版』	大隅教育事務所	令和5年
・『平成30年度研究のまとめ原国会の軌跡第2号』	鹿児島国語教育研究会原国会	平成31年
・『鹿児島国語教育団体鹿児島原国会10月定例会資料』	原田義則	令和4年
・『鹿児島国語教育団体鹿児島原国会11月定例会資料』	原田義則	令和4年

1 はじめに

社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0 時代」に入り、社会全体のデジタル化・オンライン化が進む中で学校でのタブレットの導入が始まった。急激に変化する時代の中で、児童が抱えている悩みや人間関係の築き方もこれまで以上に複雑になっているように感じる。また、新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な予測困難な時代が訪れ、児童の学習形態にも大きく影響を及ぼした。学校でのマスク着用やグループ学習の回避など自分自身や身近な人の安全を守ることと引き換えに表情が分からないことで相手の感情が読み取りづらくなり、自分の思いを表現できなくなったり、相手の気持ちを誤解したりと、人とコミュニケーションを取ることが困難になった。今年度5月に新型コロナウイルスの様々な制限が緩和されたとはいえ、グループ学習でどのように友達と話し合っているのか分からなかったり、意欲をもって学習に取り組めなかったり、3年間で子どもたちが失ったものは大きい。小学校学習指導要領（平成29年告示）前文に「一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」とあるように子どもたちを導くにはどうすればよいか、「振り返り」（自己調整学習）を中心に取り組み、以下に実践したことをまとめた。

2 研究主題

振り返りから自己実現へ
～自らの学習を調整し、学びを生かそうとする子どもの育成を目指して～

3 研究主題設定の理由

(1) 学校教育目標から

本校の学校経営方針の重点目標「確かな学力の育成」の具体策の一つである基礎学力の定着の中に「Go!5!チャレンジ!」が位置付けられている。これは、見通しと振り返りによる基礎学力の定着をねらいとしたものである。また、昨年度までの校内研修を生かし、ICTを効果的に使い、振り返りを共有することでよりよい振り返りへと質を高めたいと考える。これまでの研修の内容を生かしながら、より一層振り返りの指導に力を入れることは、「令和の日本型学校教育」でも言われている個別最適な学びと協働的な学びを言葉として目に見えるものにし、児童が主体的に学習に取り組む態度や自らの学習を調整しようとする態度の育成に繋がるのではないかと考えた。

(2) 児童の実態から

本学級の児童（5年生）は、昨年度は、「わがとも」を使った振り返りにも挑戦していた。しかし、まとめと同じような振り返りであったり、振り返りが書かされているものになっていたりして、次につながる振り返りになっていなかった。授業では、めあてすらノートに書かなかったり、すぐに関係のない話をしたり、学習に対する意欲が感じられなかった。また、ペアやグループでの話合いの経験が非常に少なく、グループをつくっても何を話しているのか分からない様子であった。そのような児童が自己の学習活動を振り返って次につなげるはずもない。

そこで、自らの学習を調整し、学びを生かそうとする児童の育成に取り組むたいと考えた。

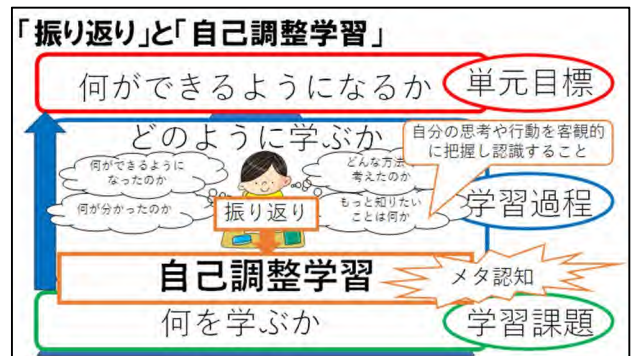
4 研究内容

- (1) 自己調整学習について
- (2) 振り返り上達への3ステップ+1について
 - ア ステップ1「教える」
 - イ ステップ2「書かせてみる（やらせてみる）」
 - ウ ステップ3「共有と称賛（評価・価値付け）」
 - エ +1「相手意識」
- (3) 振り返りから見る授業改善について
 - ア 「主体的な学び」の視点の充実
 - イ 「対話的な学び」の視点の充実
 - ウ 「深い学び」の視点の充実
- (4) 「振り返り」を実生活に生かす場の設定について
 - ア 1日の振り返り
 - イ ベスト・オブ・ノート賞
 - ウ 学校行事日記を通した振り返りについて

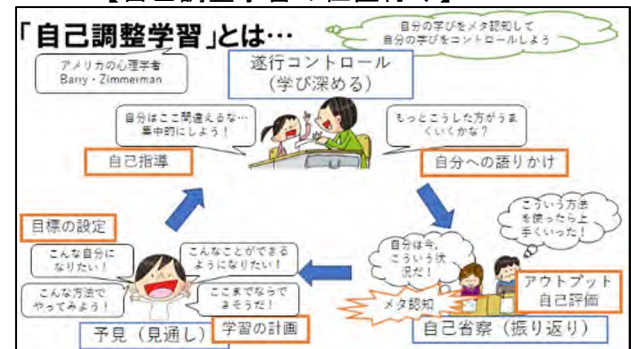
5 研究の実際

(1) 自己調整学習について

「振り返り」と深く関わりがあるのが「自己調整学習」である。「令和の日本型学校教育」における学びのイメージ（たたき台）においても、個別最適な学びの中に「自ら学習を調整」が位置付けられている。これを授業の中で「何ができるようになるか」という単元目標，そのために「何を学ぶか」という学習課題，目標に向けて「どのように学ぶか」という学習過程に置き換えるとする。その「どのように学ぶか」の中で、「何が分かったのか」「何ができるようになったか」「納得したことは何か」「もっと知りたいことは何か」など，自己の学習を振り返り，メタ認知することが自己調整だと考える。鹿児島国語教育研究会原国会令和4年10月定例会の講義で，鹿児島大学の原田義則先生が話



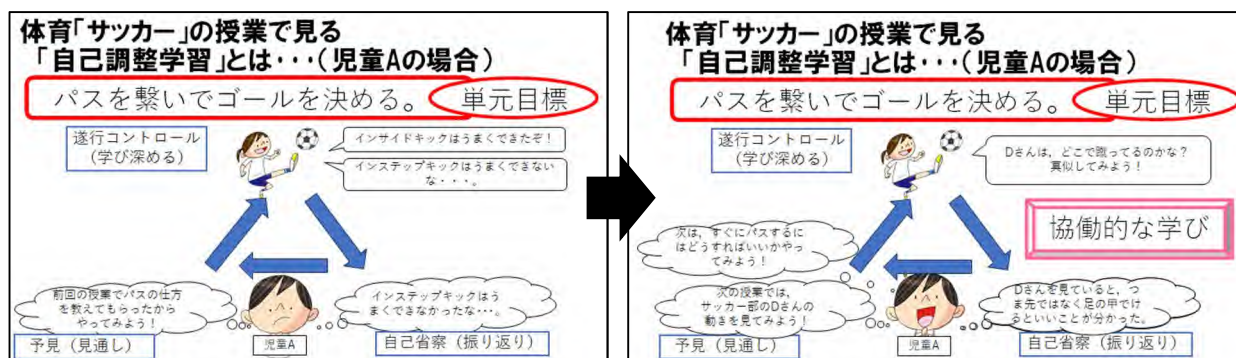
【自己調整学習の位置付け】



【自己調整学習のイメージ図】

されていたアメリカの心理学者 Barry Zimmerman らの研究について確認したところ，自己調整学習の研究でも「予見」「遂行コントロール」「自己省察」が提唱されており，見通す（動機，目的，内容，方法，時間）段階では子どもたちがなりたい自分になるという気持ちを持ち，他者との関わりの中で解決していくことや自分で解決方法を工夫し学びを深め，自己の学習を振り返りメタ認知することの大切さについて示されていた。このことから，「振り返り」は学び方を習得したり，積み重ねたりすることだけではなく，次の学びへつないでいく役割があるのではないかと考える。

例えば、昨年度6年生を担任したときの体育科「ゴール型サッカー」の学習における児童Aと児童Bの振り返りから自己調整学習のよさについて考える。児童Aは前時までの学習から、「教えてもらったパスの仕方を練習しよう。」という見通しをもち、学びを深める。授業の終わりには、「インサイドキックは上手くできたが、インステップキックはうまくできなかった。」と振り返り、次時の学習への課題をもつ。児童Aは次時の学習で、「インステップキックの仕方についてサッカーが上手なDさんの動きを見てみよう。」と見通しをもち、児童Dの動きを観察し実践する。その結果、「Dさんの動きを見てみると、つま先ではなく足の甲で蹴るといいことが分かった。」と振り返る。このように、自己調整学習における「振り返り」は児童に課題や見通しをもたせ、自己の学びを積み重ねるだけではなく、一人では解決できないことでも多様な他者と協働することで解決できるという「協働的な学び」のよさを言葉として蓄積していくことができる。



【自己調整学習 (児童Aの場合)】

また、同じ「インステップキックはうまくできない。」という課題をもつ児童Bの場合は、児童Dの動きを見るのではなく、「先生に質問し教えてもらう」という方法を選択し、課題を解決することができた。このように、同じ課題に対しても児童によって課題の解決方法は異なってくる。さらに、同じ時間の学習の振り返りを見比べても、ポジションについて課題をもつ児童もいれば、キーパーの動きに課題をもつ児童もいるなど、課題は様々である。このように自己調整学習における「振り返り」は、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度を育成する「指導の個別化」や一人一人に応じた学習活動や学習課題を設定する「学習の個性化」にもつながると考える。児童Aや児童Bのような自己調整学習の積み重ねが、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協力しながら様々な社会的変化を乗り越えようとする姿勢を育て、持続可能な社会の創り手となることができるようにするのはのではないかと考える。



【自己調整学習 (児童Bの場合)】

今日のワンポイントアドバイスの
～体育編～

時間	内容	ポイント
10:00	朝の挨拶	元気な挨拶をしよう
10:10	今日の目標	インステップキックのコツを先生に聞いてみよう！
10:20	授業	先生のアドバイスをメモしよう
10:30	休憩	水分を摂ろう
10:40	授業	先生のアドバイスをメモしよう
10:50	授業	先生のアドバイスをメモしよう
11:00	授業	先生のアドバイスをメモしよう
11:10	授業	先生のアドバイスをメモしよう
11:20	授業	先生のアドバイスをメモしよう
11:30	授業	先生のアドバイスをメモしよう
11:40	授業	先生のアドバイスをメモしよう
11:50	授業	先生のアドバイスをメモしよう
12:00	授業	先生のアドバイスをメモしよう

・ボールを蹴るときは、つま先ではなく足の甲で蹴るといいことが分かった。
 ・蹴るときは、つま先を相手に向けることだよ！
 ・インステップキックのコツを先生に聞いてみよう！
 ・先生のアドバイスをメモしよう

【ゴール型サッカーの振り返り一覧 (10人分)】

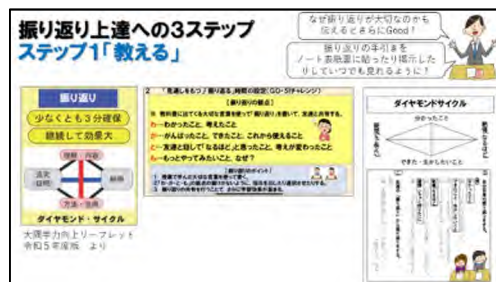
本校では昨年度、教科担任制の一環で体育専科を配置しており、私は体育の授業を一切していない。もちろん、体育の授業を見に行ったわけでもなければ、児童 A や児童 B に話を聞いたわけでもない。ただ毎時間の学習の振り返りを記録させていただきただけである。つまり、毎時間の「振り返り」を記録することは、多くの児童を相手に授業をする教師が見取ることのできない、児童一人一人が「どのように学ぶか」について見届けることにもつながるのである。

(2) 振り返り上達への3ステップ+1について

自己調整学習を促す「振り返り」の在り方について、「教える」「書かせてみる（やらせてみる）」「共有と称賛（評価・価値付け）」の3ステップで整理した。

ア ステップ1「教える」

「教える」ことは、児童にとっては「振り返り」の仕方について知ることである。その際、なぜ振り返りが大切なのか、振り返りをすることでどんなよさがあるかを伝えることが大切である。また、振り返りの手引きを掲示したり、ノート裏に貼らせたりする工夫を行うと児童も振り返りがしやすくなる。



イ ステップ2「書かせてみる（やらせてみる）」

「書かせてみる（やらせてみる）」では、児童の発達段階や単元の目標にあった振り返り方法（ノート・ワークシート・タブレットなど）を選択し記録に残すようにする。ただ、「書いてみよう！」と言ってもなかなか書けない児童がいる。その際は、モデル文の提示やキーワードの提示、振り返りの共有〔ロイロノート（株式会社 LoiLo）〕、口頭で振り返ってほしいことや視点を伝えるなどの工夫が必要である。ただ、ある程度、児童が書けるようになってきたときは、視点を与えない方が児童は自由に、そして、教師の発想を超える振り返りができる。



ウ ステップ3「共有と称賛（評価・価値付け）」

振り返りの3ステップで最も大切にしているのは、「共有と称賛（評価・価値付け）」である。

(ア) 共有について

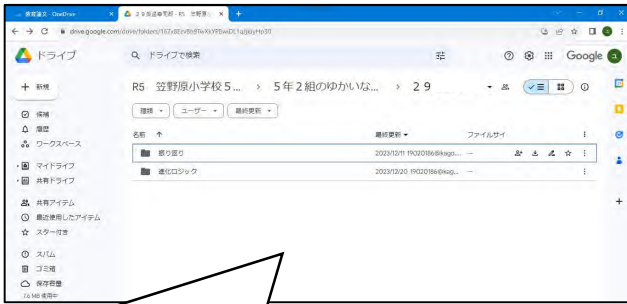
共有の仕方は次のように複数の仕方で行っている。

- ・授業の導入で電子黒板に映し出す。
- ・ロイロノートで全員に送る。
- ・ロイロノートの資料箱に入れる。
- ・Google ドライブの共有ドライブに保存する。
- ・振り返りコーナーに掲示する。



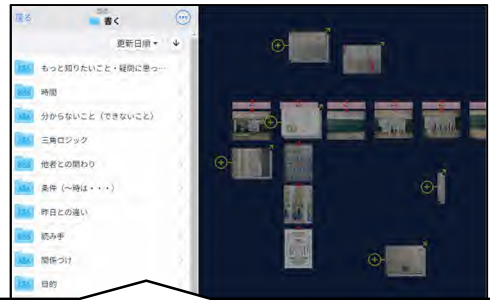
【授業の導入で電子黒板に映し出す】

お手本になるような振り返りや本時の学習につながるような振り返りを提示する。児童の振り返りが何よりもよいモデルになっている。



【Googleドライブでの個人フォルダ】

ある児童が「みんなの振り返りを参考にしたい。」と言い出したのがきっかけで、一人一人保存している。共有ドライブにしたことで、クラスの友達の振り返りをいつでも見ることが可能である。中には、振り返り以外にもノートを保存している児童もいる。



【ロイロノートの資料箱】

毎時間、導入で紹介した振り返りを資料箱に入れることで、振り返りの視点を整理している。その際は、「方法」や「時間」、「比較（比べる）」などの振り返りの視点をネーミングにして保存している。

このように児童に振り返りを共有することで振り返りのモデルとして参考にしたり、共有された児童の意欲向上につなげたりしている。

(イ) 称賛について

称賛の仕方は、発達段階や子どもの実態に合ったものを選択している。今年度は、高学年なので、「言葉」や「A・B・C」で評価しているが、この他にもスタンプや「good・very good・excellent」などでも評価ができる。ここで、大切なのは特別感がある評価である。例えば、「A・B・C」に加えて「A+」や「S」を設定したり、他の先生に褒めてもらったりすることで、児童の意欲向上にもつながる。評価の判断基準は、昨年度から研究しているが、教科・単元・領域によって質や量が違い、設定するのが難しい。そのため、「A・B・C」での評価は「評価」よりも「称賛」や「価値付け」の意味合いを大切にしている。

振り返り上達への3ステップ
ステップ3「共有(価値付け)と称賛(評価)」
 ★ 発達段階や子どもにあった称賛(評価)を!

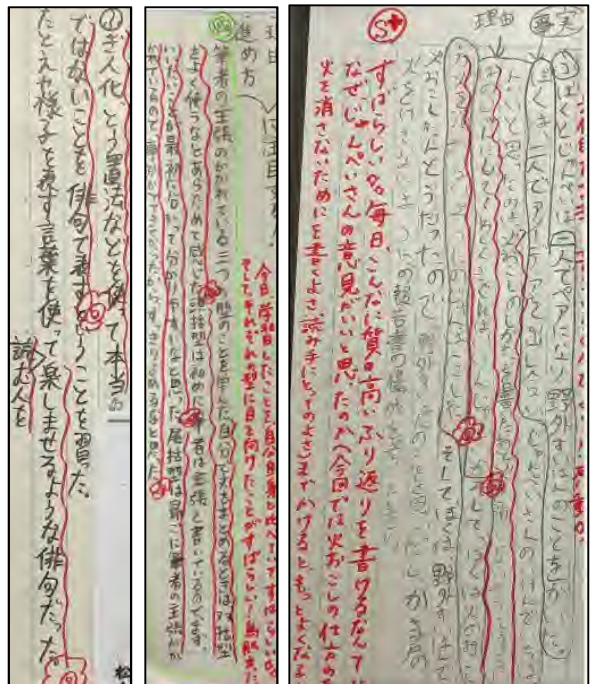
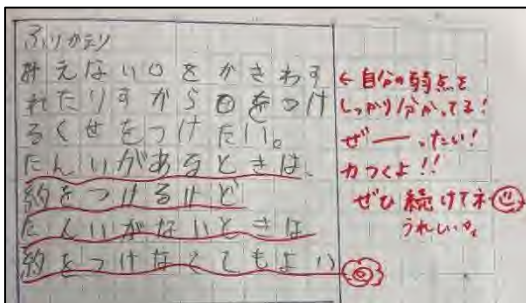
＜称賛の仕方例＞

- ・ スタンプで評価する
「がんばりました」「よくできました」「大変よくできました」
- ・ A・B・Cで評価する
- ・ ○・◎・花丸で評価する
- ・ 言葉で評価する
「すごい!上手くいった方法がよく書けてる!!」
「good」「very good」「excellent」で評価する などなど

ここがポイント
何でも「よい」と評価するのは「よい」の価値が下がってしまうので注意です!

コフは特別感のある評価を!
例「大変よくできました」スタンプを2個付ける!
他の先生に褒めてもらう!

評価基準はどうする?評価基準は仮めます...
ある程度自分の中で基準を設けて、やってみながら採っていくのがいいかと!
子どもの意欲向上へ繋げる意味ですとOK!



振り返りを記録に残すことは自分自身の学び方を記録に残すことである。これらの称賛（評価・価値付け）を通して、自分自身の振り返りが成長していること、つまり学び方が成長していることを実感させたいと考えている。児童は振り返りを評価されることをとても楽しみにしていて、よい評価がもらいたいから頑張っている部分が大きく、主体的な学びにもつながっている。それが目的になっているのはよいことなのか悩む時期もあったが、「誰かに認められたい」と思うことは当たり前のことで、児童の成長に欠かせないものであり、「認める」という意味でも称賛（評価・価値付け）は大切にしていきたい。

エ +1 「相手意識」

「共有と称賛（評価・価値付け）」でも述べたように、児童の「誰かに認められたい」という思いは、児童の意欲の面でもとても大切である。そこで、振り返りに限らず「相手意識」を大切にすることで、児童の更なる意欲向上につなげたいと考えた。

(ア) 学校訪問

10月にあった大隅教育事務所・鹿屋市教育委員会の学校訪問では、児童の提案で廊下にノートコーナーを設置し、国語と算数のノートを手に取ってもらえるようにした。児童は見たいページに付箋を貼り、「なぜ見たいのか」、「どれだけ頑張った授業なのか」自分の思いを書いていた。休み時間には授業を参観された先生に自分でノートを手渡し、「ぼくのノートどうですか。」と質問したり、ノートを手にとってもらえているのをのぞいたり嬉しそうだった。その日の日記には、「『すごい』って言われて、嬉しかった。いい1日だった。」や「褒めてもらえて自信になったし、また頑張ろうと思った。」など、これまでの自分たちの頑張りを実感し、これからの学びに意欲を見せていた。



(イ) 担任以外の先生に見てもらう

担任以外の先生に見てもらうのもとても児童の意欲に効果的である。右の写真は昼休みに、教頭先生に国語や算数のノートを見てもらっている様子である。教頭先生は一人一人のノートをじっくり見てくださり、「すごいね!」、「どうやって学んだか振り返ることは大切だよ。」等、たくさん褒めてくださった。子どもたちは終始ニコニコ笑顔で、満足そうな表情をしていた。



(ウ) 4年生との交流

2学期には、4年1組の児童へ物語文の読み取り方について教える場面を設定した。具体的には、4年「ごんぎつね(光村図書)」の教材で登場人物の心情の読み取り方について、グループに入り教えた。児童は5年「たずねびと」での学習を振り返り、「行動や会話、情景に注目するといいよ。」というふうに自信をもって声掛けする姿が見られた。

(E) 他の学級や他校の5年生との交流

今年度は教科担任制の一貫で、5年生2クラスに国語の授業をしているので、単元によっては、交流する場を設定している。「たずねびと（光村図書・5年）」の学習では、最後に書いた三行詩や三角ロジックを交流し、一番説得力のあるものを選んだ。

また、三島村立大里学園の5年生と遠隔授業を行った。「秋の夕暮れ（光村図書・5年）」の学習で、オリジナル枕草子を書き交流した。他校の児童と交流できるということで、いつも以上に主体的に授業に取り組む姿が見られた。

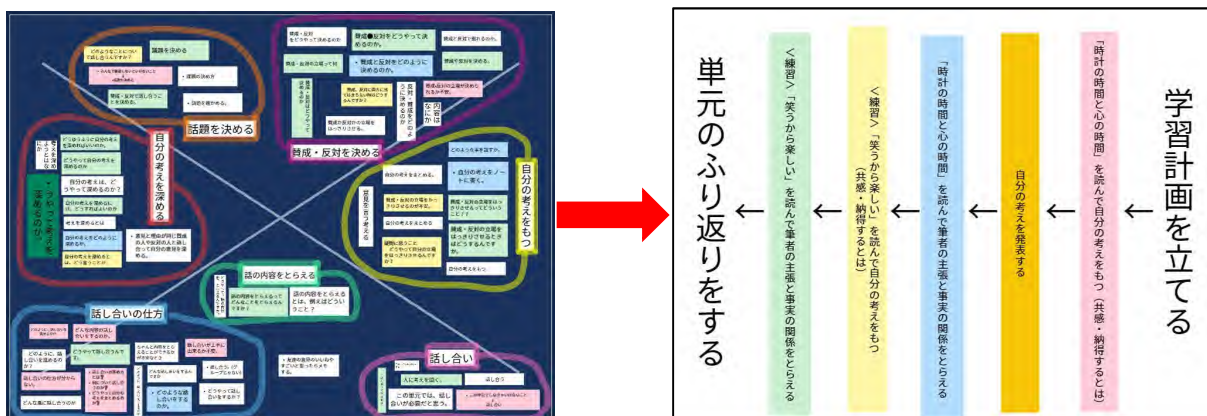
(3) 振り返りから見る授業改善について

児童の学習意欲の向上につながるために振り返りの評価を行ってきたが、「振り返り」を見ると、私自身も児童に授業を評価されているように感じる。学び方が書かれている授業は私も手応えを感じていたり、授業は盛り上がったように感じたが押さえてほしい言葉が振り返りに書かれていなかったり、授業の質と振り返りは関連しているように感じた。言い換えれば、振り返りを見届けることは、児童の学びの見届けにつながるし、私自身の授業改善へつなげることができる。そこで、振り返りがよかった授業例を次の3点でまとめた。

ア 「主体的な学び」の視点の充実

(ア) 学習の見通しのもとせ方

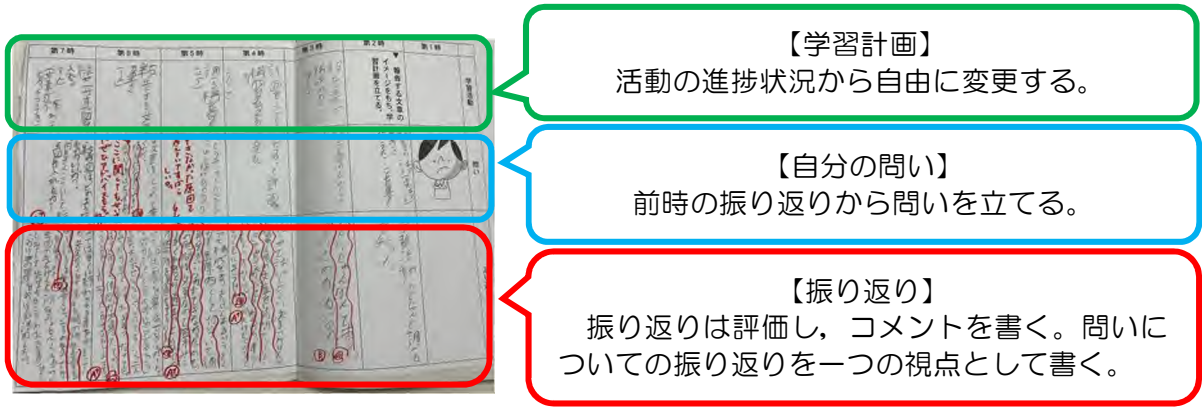
単元の学習計画を立てる際には、①「何ができるようになるか」、②「何を学ぶか」、③「どのように学ぶか」の順番で学習計画を立てている。「何ができるようになるか」は単元名から考えさせ、「何を学ぶか」は児童の初発の感想を参考にしながら学習内容を確認する。「どのように学ぶか」では、まず、「何ができるようになるか」、「何を学ぶか」から児童が疑問に思ったことや目標を達成するために必要な過程は何か、ロイロノートのシンキングツール(Xチャート)を使って出させ分類し名前を付けていく。そして、分類した事柄をロイロノートのテキストに書き出し並べ替えられるようにし、児童が目標達成に向けてどのような順番で学習していくのが最善かグループごとに話し合い、全体で共有し最終決定する。



単元「筆者の主張をとらえ、自分の考えをまとめよう」(教材「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」光村6年)

(イ) 自由進捗学習を取り入れた学習

単元「調べたことを正確に報告しよう」(教材「みんなが過ごしやすい町へ」光村5年)の学習では、自由進捗学習とし、場と時間、何をするかを自分で選択し、自由に動いて学習するスタイルとした。授業の始めに「自分の問い」を書き、終末に「振り返り」を書くようにし、自己調整を促した。学習計画は初めに立てているが、自由に変更したり、付け加えたりできるようにした。



イ 「対話的な学び」の視点の充実

「振り返り」において一番効果的なことは、話し合い活動などの「対話的な学び」の視点の充実である。ただ話し合い活動を入れるのではなく、課題解決のために何を話し合わなければいけないのか、児童が分かっていることが大切である。国語科「やなせたかし－アンパンマンの勇氣（5年・光村）」の第3時の学習の様子である。ここでは、「たかしにとって本当の正義とは何か。」という問いに対して話し合い活動を行った。そこでは次のように1時間に3つの話し合いの場を設定した。



話し合い1では、話し合い2に向けて自分たちの考えをまとめるという目的意識をもって取り組むことができる。話し合い2では、違うグループの友達と意見を交流する。その際、話し合い3で元のグループに報告することを意識するので、ただ発表するだけでなく納得するまで質問したり、ノートに書き加えたりする活動が見られる。話し合い3では、話し合い2で話し合ったことを共有する。右上の写真は第1時から第5時までの振り返りで右下の写真は単元の振り返りの写真である。振り返りの内容も「〇〇さんが『たかしがどんな仕事にも手を抜かなかったっていうのがジャムおじさんに似ている。』というのに納得した。」など、友達との発言を書くなど、児童の振り返りの質が上がっていることが分かる。



ウ 「深い学び」の視点の充実

対話的な学びの視点を充実させることは、児童の深い学びにもつながっている。次の写真は、国語科「やなせたかし－アンパンマンの勇氣（5年・光村）」の第4時の学習の様子である。【話し合い2】で、児童Eは「アンパンマンは『幅広い世代に愛されるヒーローになった。』という表現でいいのに、本文は『幅広い世代に愛されるヒーローに成長した。』と書いているのはなぜだろう。」という疑問をもった。その後、元のグループでの【話し合い3】で、児童Fの発言を基

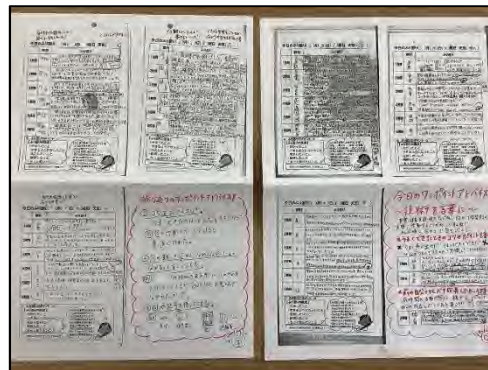
に、「アンパンマンがただの『主人公』でしかなかったのに、みんなから愛される『ヒーロー』に変わったから成長と表現されているよ。」と考えをまとめることができた。このように話し合いの場を工夫することで、新たな問いを生み出したり、その問いに対する答えを導いたりすることができると思う。



(4) 「振り返り」を実生活に生かす場の設定について

ア 1日の振り返り

授業での振り返り以外にも、家庭学習で1日の振り返りにも取り組んだ。1日の振り返りでは、1時間目から6時間目までの振り返りを行う。家庭学習でその日の学習を振り返ることで、「次の時間はこんな学習をしよう。」と見通しをもつことにもつながる。また、よく書けている振り返りはコピーし、「今日のワンポイントアドバイス」とともに配布することで、振り返り上達への参考にできるようにしている。

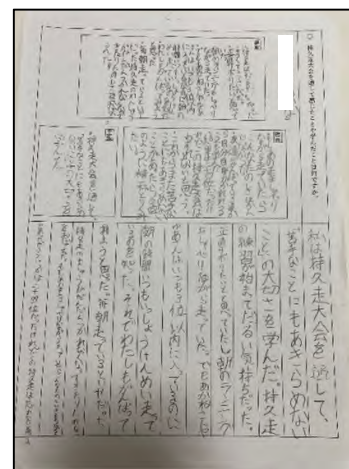


イ ベスト・オブ・ノート賞

1学期・2学期・3学期の終わりに、「ベスト・オブ・ノート賞」を決め、自分のノートを振り返る。子どもが自分自身のノートで一番好きなページを選び、その中からみんなで1番頑張っていると思うノート「ベスト・オブ・ノート賞」を選ぶ。ページを選んだ理由は、三角ロジックを使って発表する。

ウ 学校行事日記を通した振り返りについて

学校行事があると行事を通して自分がどのように成長したかを実感できるように、行事が終わった後の行事日記を通して振り返るようにした。問いを「〇〇を通して感じたことや学んだことは何ですか。」とし、それに対して三角ロジックを使って、自分の感じたことやどのように変化したかなどを書いている。行事本番までの自分自身を振り返ることで、自分自身の成長を実感するとともに、なぜ変わったのかを言葉にすることで、今後の生活に生かせるようにすることも狙いである。右の日記は、持久走大会について書いた児童Gの行事日記である。



6 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

- 振り返りの共有と称賛を行うことで、主体的に学習に取り組む態度が見られるようになった。
- 振り返りから授業改善を図り、授業の質の向上につながった。
- 国語の学習や学校生活での振り返りを通して、自分自身の成長を感じることができた。

(2) 今後の課題

- △ 振り返りの視点で、「疑問に思ったこと」を解決する場の設定ができなかった。
- △ 自己調整学習につながる振り返りができない児童が多い。
- △ 振り返りの評価の判断基準が曖昧だった。